

恩ノクバトシ

青翔中学校二年

笠谷  
良由

故郷、そこは人々にとても大きくて場所です。しかし、その故郷は場所でし

ができない方が世の中にはいいشاいます。  
一九四五八年八月九日　ソ連軍は当時有効だ  
たるソ中立条約を無視して毎日参戦し、  
日本がボツダム宣言を受諾し、無条件降伏し  
た後も攻撃を続け、八月二十八日から九月五

日のわがが八日間で北方四島を全て占領してしまいました。あ、この間にお騒ぎ下さい、た私たちの北方領土です。その時田島に住んでいた元島民の方はどんな思いで何をされていたのか私は気になりました。そして以前、私は元島民の方にお話を伺いました。その方は歯舞群島の多楽島に住んでいらしゃり、戦時中がかりも平穡で乗じて生活を送っていらっしゃったのです。そして九月二日の夜、二人のソ連兵が上陸して家に入つて

の思ひを引きつけて伝えていかなければいけません。そのために私はも、と地方領土について知らべきだと思ひました。

そこでさうに地方領土について知るために調べてみました。そこで私は「地方領土運動」といふ意味を持ちました。私が語を伺つた元島民の方も参加されていの活動で、北海道が全国へ広がり、各地で行われています。

一九九二年から始まつたこの交流は、外務大臣が発行する特別の身分証明で、地方領土へ渡航できるといつもの大方。この交流の目的は日本とロシアの友好関係を深めることであり、この交流では元島民の方々が「故郷」の北方四島に帰ることができるのです。元島民の方々の願いが叶うので、私はとても嬉しくなりました。しかし、在日期間も限り切れますが、元島民の方々の願いが完全に叶つた気であります。

きア、尊親をつきつめて、家中を走らレたそ  
うです。その時日想ひしくて、とても怖が  
った。とお、レド、アリました。その後、必  
要な物のみを持つて、根室へ脱出された彳ケ  
です。たゞ数日の間に自分たちの「故郷」  
を离れ、帰る事ができなくなり、アリまつた  
のです。故郷に帰りたい。いつか四島が戻  
アリまつしア一度故郷で生活したい」ともお  
しゃりアリうれました。私はこんな信じが  
たいことがあつたんだくことで驚き、又、懲  
しくなりました。しかし、私がお話を伺つた  
元島民の方以外にも、柳留邊での苦しい生活  
の後、本土に送られの方もいら、しゃいます。  
多くの元島民の方。が辛く、大変な生活を過  
ごされていました。

しかし、このような話を私たち若者の多く  
が知りません。北方領土に関する知識も浅く、  
自分たちの国である、といふ領土問題はのに  
関心もとても低いと思ひます。元島民の方々  
の高齢化が進む中で、私たちが元島民の方々